



(1) 共創人材

「共創」とは、異なる立場や視点を持つ組織・個人が連携し、新しい価値やアイデアを生み出すプロセス。持続可能な社会の実現のために、複眼的思考と他者との「共創」によって、あらゆる活動を推進していける「共創人材」を育成している。

(2) サステナビリティ教育研究センター (Seikei Education and Research Center for Sustainable Development, ESDセンター)

2018年に開設。小学校から中学・高等学校、大学までの連携によって持続可能な開発のための教育（ESD）を学園ぐるみで進めている。東京・武蔵野エリアの地域ESD活動推進拠点の認定を受けるとともに、世界と日本のユネスコスクールのネットワークに参画し、さまざまな主体と連携して、教育・研究に取り組むことで、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現に向けてささやかな貢献を重ねていく。

(3) オープンバッジ

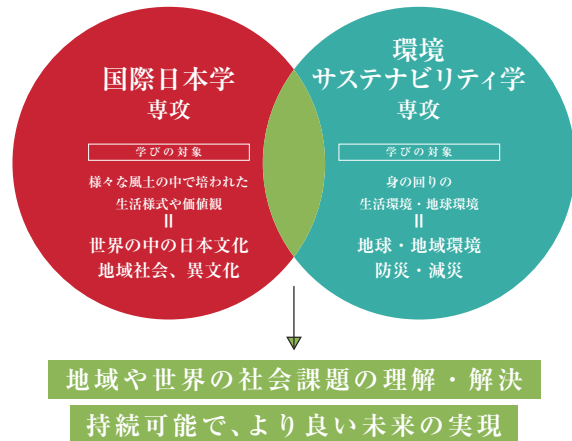
修得した知識やスキルを対外的に証明する国際技術標準規格のデジタル証明書。成蹊大学では副専攻制度、成蹊Global Study Program、成蹊アントレナリシッププログラム、丸の内ビジネス研修、数理・データサイエンス・AIリテラシープログラムなどで発行している。

(4) キャリセンLIVE

オンラインツールを使用し、就職活動時期に合わせたトピックスを生配信（年間約20回実施）している。配信が一方通行にならないように、配信中に学生の質問に回答し、双方向のコミュニケーションを図っている。疑問や不安を参加者同士で共有することができ、就職活動へのモチベーションアップにもつなげている。

「国際共創学部（26年4月開設予定）」の学びの分野

国内ではこれまで数少ない「文理の複眼思考」を養う学部を目指します。
2つの専攻それぞれを通して専門性を身につけ、また学びを横断させながら、共創人材としての確かなスキル・知識を身につけます。



最先端の研究環境を備えた理工学部の研究室と情報教育設備に加え、文系・理系が共創した学びを促進で

根を越え多様な副専攻から選択することができ、これからの時代に必要

マルチな専門性を身につけられます

そして、2026年度から始動する

プログラムが学部横断型の「成蹊

Global Study Program (GSP)」

です。GSPの特徴は、実践的な英

語力の強化、英語による専門科目、

GSP専用の少人数発信型のゼミの

設置、手厚い経済的サポートなどで

これによりグローバル化時代に貢献

できるスキルや積極性を育むことが

できます。なお、「副専攻制度」「成

蹊Global Study Program」の修了証

はデジタル証明書の一つであるオー

ブンバッジ^③で発行されます。

さらに、「自ら問い、自ら考え、

自ら答えを引き出す」という、成蹊

大学がずっと大切にしてきた主体的

な学びの姿勢を、より加速させる場

が完成しました。2024年、新11

号館に誕生したラーニング commons

「トリウム」です。

最先端の研究環境を備えた理工学

部の研究室と情報教育設備に加え、

文系・理系が共創した学びを促進で



もりゆういち
森雄一学長

1994年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。修士（文学）（東京大学）。専門は日本語の意味論・文体論・文法論。成蹊大学文学部教授、同文学部長などを経て、22年4月より現職。著書に『学びのエクササイズ レトリック』（ひつじ書房）など。

吉祥寺に全学部集約のワンキャンパスを擁する成蹊大学は、1906（明治39）年、創立者・中村春二により本郷西片町に創設された「成蹊園」を起源とします。その後、中村の個人主義と自由主義を基礎に据えた人間教育に賛同した岩崎小弥太と今村繁三の協力のもと、1912（同45）年に「成蹊実務学校」を開設。旧制成蹊高等学校の時代を経て今日へと至ります。

創立以来のリベラルな校風のもと、「本物に触れる教育」を通して、持続可能な社会に貢献できる人物の教育を展開。「丸の内ビジネス研修」や「三菱海外ビジネス研修」などの企業と連携した人材育成プログラム、全学共通の教育プログラム、きめ細かなキャリア支援体制の充実なども大きな特徴です。

次の100年を睨んで「共創人材」の育成をめざす成蹊大学は、2024年に文理融合を加速させる大学11号館が完成。2026年には「文理の複眼思考」で他者との「共創」をテーマに探究する新学部「国際共創学部」を開設予定です。

成蹊大学

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 アドミッションセンター事務局 TEL 0422-37-3533 <https://www.seikei.ac.jp/university/>

「共創人材^①」を育成する多彩な学び 持続可能な社会実現を目指し 26年4月には「国際共創学部」を開設

創立時から受け継がれる理念 ESD実現のため文理を超えた教育

成蹊大学は1912年、大正自由教育の旗手である創立者の中村春二が、三菱財閥の4代目総帥の岩崎小弥太と銀行家・今村繁三の支援のもと創設した成蹊実務学校を前身としています。「個性の尊重」・品性の陶冶「勤労の実践」を建学の精神とし、小中高大の児童・生徒・学生が一堂に通う成蹊学園としての強みを生かして、今日に至るまで個性と自由を尊重した人間教育を行ってきました。とりわけ、成蹊学園では100年の歴史を持つ「成蹊気象観測所」に代表されるように、「本物に触れる教育」を教育の原点として位置づけています。本物に触れる体験を重ねることで問題意識を科学的思考に高め、持続可能な未来社会の実現に貢献できる人材の育成をいち早く目指しているのです。

2018年にはサステナビリティ教育研究センター（ESDセンター）^②を開設し、持続可能な開発のための教育（ESD）を学園ぐる

時代のニーズに応え 新たな価値を創造する人材を育成

実務学校を源流にもつ成蹊大学は、ますます複雑化していく社会での諸問題を実践解決できる人材の養成に取り組んでいます。そのためには、キャンパス内だけでなく、学外での学びも必要です。成蹊大学には、産業界と連携したキャリア支援プログラムが数多くあります。

その一つが、2013年度から続

みで展開していますが、2026年4月には新たに「国際共創学部（国際共創学科）」を開設します。

高度化・複雑化した現代の社会課題の解決、そして持続可能な社会の実現のためには、従来の文系・理系の枠組みを超えた複眼的思考を備え、他者との「共創」によってあらゆる活動を推進することのできる人材が求められています。国際共創学部では、創立以来ESDに取り組んできた成蹊大学が、次の100年を見据える中で作りあげた学部といえます。日本および世界の地域の文化や諸課題を知り、人の営みそのものを学ぶ「国際日本学専攻」と、自然環境や地理といった人と社会を取り巻く環境を探究する「環境サステナビリティ学専攻」の2専攻を設定。専門教育と「文理複眼」の思考を養う専攻を横断した学び、そして英語をはじめとする諸言語やデータサイエンスといった情報分析など、現代社会に必須となる多彩な学びを深めていきます。

きます。仲間と共に学び合う「グループ学習エリア」、一人で集中して学習に取り組む「個別学習エリア」、学習成果の発表やイベントを開催できる「プレゼンテーションエリア」、専属のアカデミック・インストラクターによる学習支援が受けられる「アカデミックサポートエリア」など多様な学びを支えるエリアによって構成されます。大勢の学生が集うワンキャンパスの大学ならではの、新たな視点、発想のヒントがここにはあります。

2027年秋には、成蹊大学初の教育寮が誕生します。様々な国籍の学生が共に生活することで多文化・多言語環境に接し、日本にないがら異文化理解、国際感覚を養う「寮内留学」という環境を創出します。こうした教育プログラムやキャンパス内外での学びを通じて、お互いを尊重し合い多様な価値観で物事を捉え、新たな価値を創造できる人材育成を目指します。

個々に向き合う充実の キャリア支援体制

就職活動を成功に導くための秘訣は、充実した学生生活を送るとともに、早めの準備を行うことです。どのような準備をすればいいのかわからない学生を最大限支援するのが「キャリア支援センター」です。将来のキャリアについて1年次から幅広く相談することができ、3年次からはエントリーシートや面接対応

